

消化器外科で癌性腸閉塞にて過去に手術を受けた患者さんまたはご家族の方へ （臨床研究に関する情報公開文書）

北海道がんセンターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた患者さんの過去の記録や保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日 文部科学省・厚生労働省・経済産業省制定、令和4年3月10日一部改正、令和5年3月27日一部改正）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。この研究は、北海道がんセンター倫理審査委員会で承認され、当院の院長より実施の許可を得ております。

[研究課題名] 癌性腸閉塞に対する症状緩和手術の成績と課題の検討

[研究機関名・長の氏名] 北海道がんセンター 院長 平賀 博明

[研究代表者名・所属] 北海道がんセンター 消化器外科 診療支援部長 前田好章

[共同研究機関名] 該当なし

[研究の目的]

進行・再発癌の方には癌の増大による腸閉塞（癌性腸閉塞）が発生することがあります。癌性腸閉塞は胃癌、大腸癌のような消化器癌だけでなく、婦人科癌、泌尿器科癌、肺癌、乳癌、骨軟部腫瘍などの治療中にも腹膜転移、腸管転移などから発生します。癌性腸閉塞の症状は、嘔吐、腹痛、食事摂取不能など重篤であり、通常の生活はできなくなり、化学療法などの中断をもたらし、生命の危機となります。

北海道がんセンター消化器外科では、癌性腸閉塞の症状緩和手術に積極的に取り組んできました。バイパス、腸管切除、人工肛門造設などの手術方法を駆使し、癌性腸閉塞の患者さんが食事摂取可能になり→退院ができるように手術治療を施行してきました。

癌性腸閉塞に対する症状緩和手術は、すべての患者さんに施行可能なわけではありません。また、手術を施行できた患者さんでも食事や退院が可能になった患者さんがおられる一方、食事や退院ができなかった方もおられます。

本研究の目的は、手術を受けた患者さんの手術成績、経過を検討することにより、癌性腸閉塞に対する手術治療の成績と問題点、課題を明らかにし、今後の治療方針の指針を構築することです。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

当院で癌の治療を受けた患者さんで、2009年1月1日から2023年12月31日の間に癌性腸閉塞に対する症状緩和手術を受けた方（約300名程度）。

○利用する情報：カルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、既往歴、家族歴、生活歴、治療歴、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、病理組織診断、術後合併症、予後、食事摂取状況など

本研究で新たに試料の採取や、追跡情報収集等を行うことはありません。

○具体的な研究内容

2024年4月1日（第1.0版）

手術時の癌性著閉塞の状態、施行術式、術後合併症を含む術後経過、食事摂取、退院の状況、予後

○研究結果の公表について

本研究の成果は国内外の学会および学術雑誌で発表する予定です。この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

○個人情報の取り扱いについて

研究に利用する検体や情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、名前、住所など患者さん個人を直ちに特定できる情報は削除し、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果が発表される場合にもあなたのプライバシーは厳重に保護され、あなたの氏名や病名などが他に知られることは絶対にありません。

[研究実施期間]

2024年6月（倫理審査委員会による実施許可日）～2026年12月31日

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は2024年12月31日までに以下にご連絡ください。ご連絡がなかった場合、ご了承いただいたものといたします。ご了解されない場合でも不利益を受けることはありません。なお、すでに解析に使用された情報は研究データから情報を削除できない場合がございますので、ご了承ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道がんセンター 消化器外科

担当医師：前田好章

住所：〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

電話：011-811-9111

FAX：011-832-0652